

合 同

No. 507

「合理的な生き方とは」

日本キリスト合同教会教師

工藤 利雄



わたしたちは、見えるものは信じられるが、見えないものは信じられないと思いがちです。しかし、実際、日々の生活を見渡すと、人は実は見えないものを信じて生きていることに気付かされます。例えば、重力は見えませんが、誰も重力の存在を疑いません。電気の流れも見えませんが、スイッチを入れれば灯りがともると信じています。愛や信頼、希望、良心、どれも目には見えませんが、確かにわたしたちの人生を動かしています。見えないものを信じることは、決して特別なことではありません。むしろ人間の生き方そのものなのです。では、この見えないものを信じるという現実の中で、見えない神を信じて生きるとは、どのような生き方なのでしょう。

聖書は語ります。「目に見えない神の性質、つまり神の永遠の力と神性は被造物に現れており、これを通して神を知ることができます」（ローマの信徒への手紙 1 章 20 節）。神の見えない性質は、造られたものによって知らされます。自然界を見れば、そこには驚くべき秩序と美しさがあります。宇宙の秩序だった構造、生命の複雑な構造、季節の移り変わり、道徳意識の普遍性、これらは偶然の積み重ねでは説明できません。むしろ、背後に知性と目的を持つ存在があると考えの方が、はるかに合理的です。わたしたちが美しい夕焼けを見て美しいと感じるのは、そこに創造主の意図が隠されているからです。人が善を求め、悪を憎む心を持つのは、人は神にかたどって造られたからです。見える世界は見えない神の痕跡で満ちていると聖書は明らかにしています。また、これはわたしたちの経験とも一致しています。

聖書は語ります。「信仰によって、わたしたちは、この世界が神の言葉によって創造され、従って見えるものは、目に見えているものからできたのではないことが分かるのです」（ヘブライ人への手紙 11

章 3 節）。見えるものは見えないものからできている。これは、信仰の盲信ではなく、世界の構造そのものを語っているのです。現代科学も、物質の根源は見えない法則や力によって成り立っていることを明らかにしています。法則そのものは目に見えませんが、確かに働いています。つまり、世界は見えないものによって支えられているのです。見えない神を前提に世界を理解することは、決して非合理ではなく、むしろ合理的なのです。なぜなら、それは世界の本質に合致した理解だからです。

聖書は語ります。「目に見えるものによらず、信仰によって歩んでいるからです」（コリントの信徒への手紙 2 5 章 7 節）。これは、見えるものを否定することではありません。むしろ、見えるものだけでは、人生を導くには不十分であるという現実を示しています。人生の最も重要な決断は、見えない価値に基づいて行われます。愛する人を信頼すること、将来に希望を持つこと、困難の中で諦めずに歩むこと、これらはすべて見えないものに根ざしています。信仰とは、人生の本質を見抜く合理的な生き方です。見える状況に左右されず、見えない神の約束に立つ生き方です。

では、わたしたちはどのように見えない神を信じて歩むべきでしょうか。

(1) 日常の中で神の痕跡を読み取る

自然の美しさ、人の良心、祈りの応答、偶然とは思えない導き、それらは見えませんが、その神の働きは確かに働いています。

(2) 状況ではなく神の約束に立つ

不安なとき、状況は見えますが、神の計画は見えません。しかし、見えない神の約束は確かです。

(3) 見えない価値を優先する人生を選ぶ

目に見える成功より見えない品性を、目に見える利益より見えない誠実を、目に見える不安より見えない神の平安を選ぶことです。見えないものを大切にする人は、揺るがない人生を歩みます。

世界は見えない法則で成り立っています。人生は見えない価値で支えられています。自然界は見えない神の証拠で満ちています。ですから、聖書はわたしたちにこう語りかけます。見えない神を信じるこそ、最も合理的な生き方である。今日、わたしたちがこの見えない神に信頼し、確かな希望をもって歩む者とされますように。